

子育て支援の充実・強化



予防接種事業



子ども等インフルエンザ予防接種及び、
おたふくかぜワクチン接種への助成
3,293万円

すこやか赤ちゃん応援事業

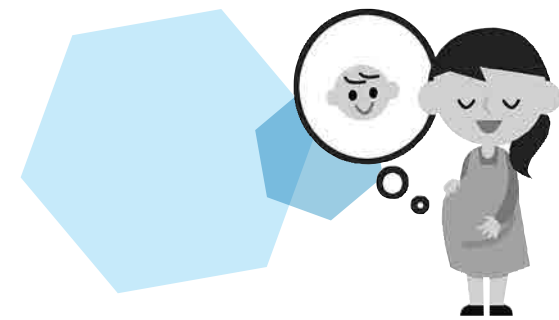


育児用品の購入費用助成やブック配布など
490万円

除染対策事業



汚染土壌等の中間貯蔵施設への輸送
4億6,145万円



● 平成28年度に引き続き行う主な事業

- 臨時福祉給付金経済対策分給付事業
- 地方創生拠点整備事業
- 棚倉保育園新園舎建設補助事業
- 幼稚園大規模改修事業
- 放射性物質吸収抑制対策事業
- ふくしま森林再生事業



町長の提出議案説明の様子

3月定例会は、3月8日から17日までの10日の会期で開催されました。
平成29年度当初予算や平成28年度予算の補正、条例の制定や改正、専決処分報告、追加議案の人事案件などについて審議し、すべて原案のとおり可決・同意されました。
一般質問(8ページより)では、9名の議員が登壇し、町政をたどりました。

● 平成29年度各会計の予算額

(△は減額表示)

会計名	29年度予算	28年度予算	比較			
			増減費	伸び率		
一般会計	64億5,100万円	68億1,700万円	△3億6,600万円	△5.4%		
特別会計	国民健康保険	17億3,116万円	17億4,697万円	△1,581万円	△0.9%	
	後期高齢者医療	1億3,246万円	1億2,925万円	321万円	2.5%	
	介護保険	13億5,925万円	13億4,577万円	1,348万円	1.0%	
	簡易水道事業	4,090万円	8,989万円	△4,899万円	△54.5%	
	公共下水道事業	2億6,591万円	2億7,333万円	△742万円	△2.7%	
	農業集落排水事業	7,448万円	7,341万円	107万円	1.5%	
	霊園整備事業	64万円	74万円	△10万円	△13.5%	
上水道事業会計	収益的収支	収入	4億2,130万円	4億2,691万円	△561万円	△1.3%
		支出	3億5,487万円	13億8,043万円	△10億2,556万円	△74.3%
	資本的収支	収入	7,029万円	7,919万円	△890万円	△11.2%
		支出	1億9,939万円	2億2,248万円	△2,309万円	△10.38%

(1万円未満切り捨て)

予算特別委員会に付託された平成29年度当初予算について、第6次棚倉町振興計画を推進するため慎重に審議しました。



予算特別委員会の様子

《特別会計》

国民健康保険

国保滞納者への保険証発行などの対策と件数は。

住民課

国保短期被保険者証交付要綱に基づき税務課と連携し交付している。
短期被保険者証の発行件数は、1カ月35世帯・3ヶ月40世帯・6カ月38世帯。

公共下水道事業

新たな公共下水道施設整備について計画は無いとのことだが、新たな地区や企業の参入となれば、その地区によっては下水道整備の再検討が必要でないか。

上下水道課

現在、整備されていない区域を整備するためには、巨額の経費がかかるため休止している。

《一般会計》

ふるさと納税について全国的に年々過激になってきているが本町は。

総務課

全国的に自治体間での過度な競争が問題になっているが、本町においては、その事に留意しながら29年度からは業者へ委託し、広く募っていく。

観光ガイドを育成し数年経過したが、今後の事業の展開は。

地域創生課

29年度で4年目を迎え、資格者の研修ばかりでなく、今後は町民皆が来町された方に説明が出来るような取り組みを検討している。



後期高齢者医療

後期高齢者の人数の伸びは。

住民課

26年度2,297人・27年度2,324人・28年度2,338人と年々微増している。

介護保険

包括的支援事業の様々なサービスは委託された業者が行うのか。

健康福祉課

地域包括支援センターへの委託料が主で、センターの業務として、高齢者の介護予防事業や、総合的な相談などの窓口になっている。

霊園整備事業

新たな霊園整備はあるか。

住民課

以前は、検討すると回答しているが、現在のところ計画は無い。

学力向上支援推進事業の内容は。

子ども教育課

主な内容として、中学3年を除く標準学力テストをすべての学年で実施する予算及び、タブレット端末を導入する予算となっている。

防犯灯は何基整備し、各地区より要望は来ているのか。また、すべての防犯灯整備の対応は出来ないか。

住民課

35箇所修繕、5基整備。28年度の新設の要望32件のうち、25件は対応済み。

なお、一気にすべての改修等は難しい。犯罪や事故等が発生する恐れがある箇所を優先的に言い、出来るところから行っていく。



米の全袋検査の予算が増額となっているがその内容は。

産業振興課

福井検査場への持ち込み袋数の増を見込んだもの。

ふくしま森林再生事業費について、経費は国県の補助金等で賄えるのであれば、規模を大きくして取り組めないのか。

産業振興課

当初の計画が5年のため、現在はその計画により実施しているが、次期計画では、規模の検討も含め、事業の見直しを図っていく。

都市公園管理費の事業内容と、事故の無いように完全に管理されているのか。

整備課

町内の都市公園は18箇所あり、その委託などの維持管理費となっている。また安全確認については、毎週町内パトロールを行っており、公園についても現地で安全確認をしている。

当初予算採決の状況

一般会計予算の原案をめぐって、予算特別委員会において討論が行われました。また、本会議においても討論が行われました。
(反対討論/鈴木 政夫議員 賛成討論/藤田 光子議員)

反対

鈴木 政夫 議員

前年対比3億6,600万の減となっている。なぜ29年度は28年度より減額されているのか納得がいかない。予算が減になるということは人口減少を食い止めるためにも、もっと予算を有効に活用する必要があると思う。

具体的には、学校給食の助成問題。棚倉町を除く郡内では実施している。また、ふくしま森林再生事業については、森林に囲まれている当町の大きな問題となっている。そして、企業誘致政策について、100万円程度予算では企業誘致に取り組む姿勢が感じられない。このような予算執行、行政としての取り組みでいいのか。改めて考えざるを得ないことをお伝えし反対の討論とする。

賛成

菊池 忠一 議員

今年の一般会計予算は、税収等が厳しい状況の中で、昨年に引き続き、子どもたちの学力向上事業の充実を始め、里山保全事業、予防接種事業、除染事業などの各種事業が継続して予算化された内容となっている。また、妊産婦の心身ケアや育児サポートの充実。新たに、ひとり親家庭生活安定支援事業が追加され、子育て支援策をより一層充実させようとする内容である。しかしながら、賛成する立場ではあるが、町当局には予算施行に当たり、町民の要望、期待に十分に答えられるよう弾力的な運用を執行されることを是非望み、賛成の意として討論とする。

予算特別委員会、本会議とも 反対1名・賛成13名

平成28年度補正予算

(主な事業)



3月補正予算の状況

(△は減額表示)

会計名	補正額	補正後の予算額	
一般会計	1億1,548万円	71億931万円	
特別会計	国民健康保険	142万円	17億5,545万円
	後期高齢者医療	173万円	1億3,108万円
	介護保険	△5,392万円	13億3,557万円
	農業集落排水事業	△126万円	6,871万円
	公共下水道事業	△518万円	2億6,996万円
	簡易水道事業	△373万円	9,951万円
上水道事業会計	収益的支出	△522万円	13億8,579万円
	資本的収入	187万円	5,726万円
	資本的支出	△367万円	1億9,994万円

(1万円未満切り捨て)



その他の条例制定・一部改正 (抜粋)

◆ 棚倉町リゾートスポーツプラザ「ルネサンス棚倉」条例の一部を改正する条例

スポーツ施設の機能向上に伴い、利用料金上限額を改正するもの

◆ 特別職の職員で非常勤のもの
の報酬及び費用弁償に関する
条例の一部を改正する条例

農業委員会制度の改正に伴い、委員及び新たに設置の農地利用最適化推進委員の報酬等について改正するもの

◆ 棚倉町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

介護保険法等の一部改正に伴い、小規模通所介護の指定・監督権限が都道府県から市町村に移行し地域密着型サービスとして位置づけられるため、設備・運営に関する基準を定める規定等について改正するもの

◆ 棚倉町農業委員会委員等の定数を定める条例

農業委員会等に関する法律の改正に基づき、棚倉町農業委員の定数及び新たに設置の農地利用最適化推進委員の定数を定めるもの

陳情

◎ 「福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書提出の陳情について」

提出者
日本労働組合総連合会福島県連合会東白川地区連合会
議長 陣野 一弥

人事案件

人事案件について、全会一致で同意しました。
任期は、平成29年7月1日より3年間です。

人権擁護委員候補者の推薦



菅原 海淳さん (花園)

「特別職の職員で非常勤のもの
の報酬及び費用弁償に関する
条例の一部を改正する条例」の
討論がありました。

反対 須藤 俊一 議員

新制度となる農地利用最適化推進委員の報酬が18万円は低すぎるのではないかと。郡内では当町が人口的にも農地面積的にも大きいのであれば、郡内で一番高いところの20万円に合わせるべきであると考える。農業委員の報酬は5千円から1万4千円高くなり約23万円となったが、最適化推進委員の報酬と比べると約5万円の開きがある。

賛成 蛭田 卓雄 議員

今回の条例の一部改正は、農業委員の定数及び、新たに設置される農地利用最適化推進委員の定数と密接につながっており、先の委員会において町当局からの説明があったように、農業委員会運営に新たに加わる町財政の負担や農業委員と推進委員のそれぞれの業務内容について説明があった。

更に、農業委員会活動状況の確認をし、今後は報酬と業務等に改善が必要とされた際は、前向きに対応されるという意向が示された。よって、総務常任委員会において賛成とすることに決定したことを踏まえ、この条例改正は適正なものと考え賛成の意を表す。

反対者

須藤俊一・和知裕喜・佐藤喜一・鈴木政夫
賛成者 蛭田卓雄・松本英一・藤田光子・菊池忠二・近藤正光・古市泰久・佐川裕一・藤田智之・和知良則

町政を問う



3月定例会では9人の議員が登壇し質疑を行いました。今回は、それぞれの分野で、多岐にわたり質問がされました。次のページからは、要点をまとめて掲載してあります。

1 蛭田 卓雄 議員 …… 9ページ

1. 風評被害等の対策を問う
2. 原発事故損害賠償を問う
3. 除染事業等について問う

2 須藤 俊一 議員 …… 10ページ

1. 白棚線の利活用と、企業誘致を問う
2. 棚倉町の防災、防犯対策を問う
3. 経営所得安定対策事業を問う
4. 通学路の整備状況を問う

3 古市 泰久 議員 …… 11ページ

1. 人口減少に伴う雇用の場の創出について
2. 幼稚園の運営管理について
3. 学校2学期制の検証と制度の再構築について

4 佐川 裕一 議員 …… 12ページ

1. 企業誘致を問う
2. 車道部のカラー舗装及び歩道の補修について
3. 人口減少対策について

5 藤田 智之 議員 …… 13ページ

1. 白棚線の活性化について
2. ゴミ屋敷対策の条例が必要でないか
3. 白河市との連携を問う

6 鈴木 政夫 議員 …… 14ページ

1. 田楽橋周辺の町道整備について
2. ルネサンス棚倉の改革について
3. 町内巡回バスの試行運転計画について
4. 企業誘致活動について

7 藤田 光子 議員 …… 15ページ

1. 3年保育全幼稚園実施にむけて
2. 八槻都々古別神社周辺の環境整備状況について
3. 各案内板について

8 菊池 忠二 議員 …… 16ページ

1. 東日本大震災からの復興について問う
2. 湯座町長の企業誘致における考え方を問う
3. 1億人総活躍時代のコストについて
4. 2元制民主主義のコストについて問う

9 和知 裕喜 議員 …… 17ページ

1. 奥州一宮 八槻歴史の駅整備事業は
2. 道路の日陰対策事業について
3. 棚倉町健康づくり交流館整備事業について

問 風評被害等の対策を問う

答 全量全袋検査は継続の見込み

問 風評被害払拭にどのような対策で望むのか。

町長 風評・風化対策として、各種イベント開催などに取り組み、県の動向を注視しながら有利な財源を確保し、歴史的観光資源を活用し効果的な事業を図る。

問 アンテナショップ閉店後の取り組みや、風評・風化対策プロジェクトの取り組みは。

町長 鶴見区や川越市でのイベント及びミディテや川越市観光物産館蔵里を活用し、PRや風評被害払拭に努める。アンテナショップについては、鶴見区内の商店街と協議中。

問 米の全量全袋検査・食品や農作物等の検査継続と検査機器等の管理は。

町長 検査実施については、継続されると見込んでいる。検査機器は、メンテナンスや検査プログラムの校正を実施。



全量全袋検査の様子

問 ふくしま森林再生事業の取り組みは。

町長 平成29年度は、30ヘクタールの事業を予定。事業延長の通知があり次第、次期計画の対応を検討。

問 塩化カリ無償配布の今後

町長 県の営農再開支援事業が継続される限り継続する。

問 原発事故損害賠償を問う賠償の継続を求めている

問 風評被害が払拭されない限り損害賠償を求めて行くのか。

町長 風評被害等が続く限り損害賠償の継続を求めていく。

問 観光施設「ルネサンス棚倉」等の損害賠償状況等は。

町長 平成27年度に損害賠償金の支払を受けている。

問 上下水道施設の損害賠償状況等は。

町長 ろ過砂入れ換え、浄化センター汚泥処理経費は受領済み。今後、損害賠償請求に値する事例が生じた場合は請求する。

問 山林損害賠償状況についてどのような見解を持っているのか。

町長 農業の賠償と同様引き続き要望していく。

問 除染事業等について問う

答 輸送計画が示されている

問 仮置き場への汚染土壌や学校敷地内汚染土壌等の移送計画は。

町長 輸送計画が示されており、学校敷地内汚染土壌等は夏休み期間中、順次輸送の計画。

問 ため池等の除染計画は。

町長 基準値の8000ベクレル未満であるため、今後の計画は無い。

問 除染実施状況と課題は。

町長 線量の高い箇所が出現した場合、国の費用で出来るよう要望して行く。



ひる たく お 蛭田 卓雄

問 白棚線の利活用と、企業誘致を問う

答 土地利用計画が生じた時に検討する

問 国道289号線金沢内地区から町道逆川金沢内線まで旧白棚線を町道として整備する考えはあるか。この路線の整備により隣接する広大な山林等への新たな企業誘致を生み、町内企業の業務拡大の受け皿、地元住民の生活の利便性、安全、安心に大きな役割を果たすと思うが。

町長 現段階では、払い下げを受け町道として整備する考えはない。只、一部の利用する、松木の近辺だけを利用すると言いつ事は、今後考えていくべきだと思う。
整備課長 企業誘致が浮上した時に、道路整備も一体的に考えていく。

産業振興課長 ここについても工場誘致の場所としては、今後検討していく。

問 町内からの旧白棚線への入口は、町道新町下町線の起点部を十字路として松木地区までの整備する考えはあるか。

町長 十字路とする事も一つの案として検討していく。



再利用が望まれる白棚線跡地

問 棚倉町の防災無線の難聴対策は

答 家庭からの申し出により対応している

問 防災備蓄倉庫の備蓄品の内容と、各備品への対応は。

町長 一階には消防防災備品等、二階には避難所等で使用する

問 経営所得安定対策事業を問う

答 飼料用米の作付面積の増加や配分額の圧縮により産地交付金は1万2,750円となった

問 平成28年度、国県の飼料米交付金は作付後、大幅に削減された。農家、町の声は届かないのか。平成29年度の国県町の状況は。

生活必需品が備蓄されている。賞味期限、期間等がある備蓄食料品は火災防御訓練の炊き出しに提供している。

問 屋内防災無線の難聴地区、家庭の把握対応は。現在までの屋外アンテナを設置数は。

町長 家庭からの申し出により受信状況を調査し、状況に応じた処置を取っている。これまでの設置件数は壁付けアンテナ77基、3素子アンテナ3基。

問 通学路の町道沢目上台線の歩道設置の整備状況は

答 歩道設置区間は延長200m。3月中旬に上台地区の関係者に説明会を開催し協力を依頼する



須藤 俊一

町長 平成27年度並みの交付金の堅持を要望したが、追加配分はなかった。29年度も圧縮した額での配分、多取品種の作付推奨が見込まれる。町の助成金は飼料用米の作付けで最大6,400円助成する。

問 小中規模工業団地を造成する考えは

答 リスクを考え、オーダーメイド方式

問 人口減少に伴う雇用の場の創出について、平成29年度の雇用施策は。

町長 企業訪問の際、雇用や事業拡大の要望、関連する企業への誘致の働きかけを行う。また、棚倉町無料職業紹介とハローワーク白河との連携強化を進め雇用の確保に努める。

問 総合戦略のアンケート調査の中で、転出した若者の半数以上は棚倉へ戻りたいが、雇用の場が無いため戻れないと回答しているが。

町長 若者の仕事のミスマッチがおきていると認識している。やりがいのある産業の誘致育成を考えた。

問 白河地区の県営工業団地は、オーダーメイド方式（未造成）の団地が売れ残っている。町当局はこの20年間、終始一貫してオーダーメイド方式で通してきた。

た。今後レディメイド方式（既造成）の併用方式を新たに棚倉方式として検討してはどうか。

町長 今まで長くオーダーメイド方式と言ってきたが、色々な方法があるものと思っている。しかし、工業団地を造成するには、さらに十分な検討が必要だろうと思っている。

問 幼稚園児の体調急変時の対応と養護教員の連携について

答 通常は、職員並びに保護者に対応している



問 平成30年度より幼稚園の3年保育が開始される。3歳児は、生理機能や免疫機能が未発達のため、体調急変時の対応については、養護教諭を配置する必要がある。



先生の話聞き入る幼稚園児

あるのではない。園長や教諭は専門知識を有していない。誰が判断するのか。

教育長 体調急変時というのは、どの様な状態なのかケースバイケースであると思う。最終的には園長が、園長が不在の時には教頭が救急車を呼ぶかどうかの判断をする。養護教諭がいる・いないに関係なく組織上そのような体制になっている。

問 嘱託園長の雇用は、今後とも継続する意向なのか。

教育長 内部登用を図りつつ、嘱託園長の配置を視野に入れて園の運営を図っていく。



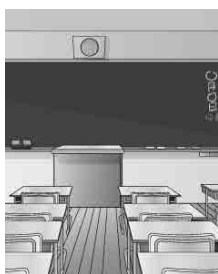
古市 泰久

問 学校2学期制の検証と制度の再構築の時期について

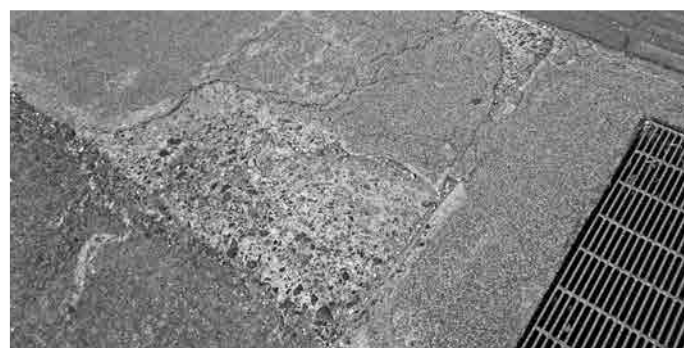
答 中学校では、高校受験の評価等から平成27年度に3学期制に戻した。

問 平成19年度に開始した2学期制は、10年を経過したが再構築は考えているのか。

教育長 小学校・幼稚園は、引き続き2学期制を継続し、検証する。



問 カラー歩道全体の補修は 実施計画の中で検討



抜本的な改修が望まれる
カラー歩道

問 カラー歩道全体の補修は。町長 今後、社会資本整備総合交付金などにより、側溝及び舗装の改修が可能かどうか、県と協議しながら、実施計画の中で財政面も含め検討したい。

問 人口減少対策として「お試し住宅」を整備してはどうか

答 ルネサンス棚倉の施設を活用

問 人口減少対策と空き家対策を兼ねて「お試し住宅」を整備してはどうか。

町長 一地域居住・移住推進のための施設整備をルネサンス棚倉の施設を活用し、現在改修を行っているところであり、今後、この施設をおおいにPRをし、積極的な活用を図っていく。

問 新たに住宅を建てるか、リフォームする夫婦世帯に借入金の

利子補給を行ってはどうか。町長 定住推進のための施策として、平成28年度に子育て世代定住促進新築住宅補助金交付要綱を制定し、平成29年度に予算を計上したところであり、借入金の利子補給については、現在のところ考えてはいない。

問 企業誘致の今後の見通しは

答 情報収集や誘致要請等の企業誘致活動を実施

問 現在の誘致活動の状況と今後の見通しは。

町長 誘致企業の東京本社訪問や福島県東京事務所訪問、県企業立地課の訪問、県企業立地セミナーにおいて情報収集や参加企業へのPR活動を実施してきた。今後も、情報収集や誘致要請等の企業誘致活動を実施していく。



さ が わ ゆう い ち
佐川 裕一

問 企業誘致の必要性はどの程度に考えているのか。

町長 安定した働く場の確保が重要であると認識しており、そのためにも、企業誘致は重要であると考えている。また、町外の企業誘致だけではなく、町内企業の事業規模拡大や関連する企業の誘致の働きかけも重要と考えており、新たな雇用が生まれる施策を推進していく。



問 白棚線の活性化は 答 JRバス関東、白河市と意見を交換

問 重要な公共交通網の白棚線の活性化への取り組み、駅前跡地などの有効利用は。高校生の通学費を補助できないか。白棚線の歴史への取り組みや図書館の活用は。

町長 本町、白河市、JRバス関東での意見交換会を組織し活性化に向けて取り組んでおり、路線維持などの問題はない。駅前の跡地について整備の計画はないが、JRバスと情報を共有していく。定期券の購入については、利用者への配慮を要望している。高校生の通学補助は検討していない。歴史の研究と保存は、二者意見交換会において協議していきたい。図書館の駅利用者への開放は、考えていない。



年間34万人が利用する白棚線

問 ごみ屋敷対策条例が必要では

答 現在、検討していない

問 今後、高齢者や認知症、空き家などによる地域課題の家屋の増加が予想されるが、法的根拠を持たないと対処が難しい。条例制定を検討すべきでは。



町長 郡山市での条例の制定や行政代執行は承知しているが、当町では現在のところ、条例の制定等は検討していない。町へのゴミ屋敷等の苦情は無い為、安易に条例を制定するのではなく、そういう事態にならない様、地域と協力していきたい。

問 行政処分ではなく、相談に乗るとか援助する為にも、必要ではないか。先進事例を研究しては。

住民課長 十分検討したい。

問 白河市との定住自立圏構想は

答 共生ビジョンにより実施

問 隣接する白河市は様々な分野で関わりが深く、連携や協力をより推進すべきだが、どの様に進められているか。

町長 定住自立圏構想の事業は特別交付税で白河市が44%、8町村が各7%を負担している。共生ビジョンにより事業が計画され、特産品開発事業や婚活支援事業が実施されている。企業誘致や雇用確保でも情報の共有や連携を図っている。文化センター等、公共施設使用の連携も今後進めたい。特に隣接する表郷、東地区との連携は効果的な事業があれば検討したい。

問 棚倉ファーストでの提案は。地域創生課長 メリットのある事業は積極的に連携したい。



ふじ た とも ゆき
藤田 智之

問 田楽橋の町道整備はなぜ進まないのか 答 引き続き交渉していく

問 前回の質問では地権者と土地の価格について交渉を行っているとの答弁があったが、具体的に価格の交渉に入ってから3ヵ月経っている。何が原因で時間がかかっているのか。
町長 前回の答弁のとおり、合意が得られるように交渉を重ねていきたい。

問 町が地権者へ提示した「正当な価格」とは、どんな根拠なのか。
整備課長 近隣の固定資産税の評価額、当該地域の取引相場、不動産鑑定など総合的に内部で決定した価格を提示している。

問 買い上げようとしている土地は、道路以外で何に活用を考えているのか。
整備課長 駅に近く、地理的にも良い場所なので公共用地として有効活用できる。



改革が求められているルネサンス棚倉

問 ルネサンス棚倉の現状は
答 客数は震災前の6割程度しか戻っていない

問 ルネサンス棚倉は、東電からの賠償金で単年度赤字、しかし、営業利益は赤字となったまま。この問題の改善は緊急の課題。また、利用者へのクアハウス優待券の発行を行ったが、現在は発行していないのはなぜか。要するに改革は進んでいないのでは。

町長 ルネサンス棚倉の客数は、震災前の6割程度しか戻っていない。今後は、スポーツの団体等の集客の増加を図っていききたい。
利用者への優待券は、クアハウス改修した後の特別価格をそのまま利用しているので、現在は優待券の配布は行っていない。



問 改革には、取締役会が重要だが、取締役会はどれくらい開催されているのか。
産業振興課長 産業振興課では把握していない。

問 町内巡回バス試行運転計画について
答 デマンド、タクシー等を含め検討中

問 町内巡回バスは、町が地域公共交通網計画で、平成29年度試行運転、平成30年度に発足させることになっているが、その準備状況はどの様に進んでいるのか。
町長 平成29年度の試行運転は、デマンド交通やタクシーを含め内部で検討しているところである。

問 本町は、企業誘致に非常に消極的である
答 町内企業からの情報収集や関連する企業への誘致への働きかけを進めたい。



鈴木 政夫

問 3年保育全幼稚園実施にむけて 答 各幼稚園の状況を踏まえ対応していく

問 町立幼稚園4園（棚倉、近津、社川、高野）の受け入れ準備について、それぞれの環境はどの様に整備されようとしているのか。
教育長 3歳児保育に必要な備品等について整備しているところであり、施設については各園の状況を踏まえ、保育室の一部増設や大規模改修工事と併せて整備をし、対応していく。

問 受け入れ児童数に対する教師の配置について、支援員、緊急雇用の費用が県から全額でいたが今年で打ち切りとなり全額町負担となるがどの様な対応を考えているのか。
教育長 今年度は県の緊急雇用創出基金事業として全額が補助されている。来年度は継続されませんが、教育の充実の観点から必要不可欠のため全額を町の負担で行う。

問 以前質問の際に、考えているとの返答があった棚倉幼稚園の

養護教諭についてどの様な考えを決定されたのか。
教育長 学校教育法並びに幼稚園設置基準において努力義務の規定となっているところだが引き続き検討していく。

問 30年度に1教室をつくることにより狭くなる棚倉幼稚園の駐車場について、隣接の土地の購入、借り上げなどを考えているか。
子ども教育課長 駐車場については役場の方でも増設をするという予定でいる。利用状況を見ながら本来に必要なかどうかということも含めて今後検討していきたいと思っている。

問 八槻都々古別神社周辺の環境整備状況について
答 地方創生拠点整備事業費を計上



新たな看板設置が望まれる

問 各案内板について

答 今年度は、3基発注

問 観光客増大を目指す大変重要な政策である案内板について、先般の質問に対し、関係機関と協議し町全体計画として検討すると

問 訪れた人達が快く過ごす事ができる環境対策について今後どのような展開がされようとしているのか。
町長 事業概要については、情報発信機能や町の特産品を販売、さらには公衆トイレを合わせ持った観光拠点施設を神社の隣接地に整備する。



藤田 光子

のことであった。桜の季節を迎えるにあたり早急を要すると思うが、どの様な協議がなされ計画されているのか。
町長 案内板の設置については必要性、見やすさ、景観との調和などに配慮する必要がある。関係機関と協議をかねて観光施設までの案内板の重要性を認識し、今年度観光協会において3基の観光案内板設置工事を発注した。さらに今後も必要性を検討しながら、設置場所や標記内容等を含め関係機関と協議していく。

問 発注された3基について。
地域創生課長 既存の道路案内板に添架する形で設置。

①国道289号線と県道棚倉・矢吹線（逆川の交差点）白河方面、矢吹方面から来た所
②国道118号線を南下した丁字路付近
以上の場所に山本不動尊、城跡などの案内をする看板を設置する。

問 東日本大震災からの復興を問う 答 風評被害は依然として残っている

問 ルネサンス棚倉の客数は震災前の6割だということだが、将来に向けて健全な運営が可能か。
町長 地域資源を活用し健康増進のためのヘルスツーリズム事業、フィットネス機器の導入、インドアテニスコート改修工事等により集客の増加を図っていく。

問 山本不動産の松茸は永久に販売はしないのか。
産業振興課長 放射性物質が1つの品物で3回低水準であれば解除になるが至っていない、森林再生事業を活用し森林の整備と除染の様な効果が得られるよう対応していく。

問 町営住宅の耐震、長寿命化計画進捗状況と完了予定は。
整備課長 5年ごとに見直しを行い平成36年を完了の目標としている。

問 衛星電話を設置する考えはあるか。
住民課長 災害時の電話の対応は年度内に災害対応電話の設置予定。

問 災害当時、町民の多くが不安でどうしていいのかわからない状況だったが、これから仮に有事の際、町長は町民の不安に対応する為に色んな媒体を通じ人間性を持ったメッセージを発信すべきだと思うが。
町長 現実起こっている、裏付けのある正確な情報を発信していく。

問 町長の企業誘致における政策を問う
答 その時々々の企業誘致の情勢を素早く精査し判断していく



改修を待つ町営住宅

問 我が建設経済常任委員会が先日、県の企業立地課にて産業団地造成等の要望を伝えてきたところだが産業振興課長も最近訪問したのか。
産業振興課長 訪問したところ県で行う大きな団地の造成は厳しい状況だが、今後も要望活動は行っていく。
問 オーダーメイドにこだわるとの理由は。
産業振興課長 造成費を特別会計で予算化し実行するが、早急に売却できないと借金返済と金利負担がふくらむ可能性がある。

問 1億人総活躍時代の社会的コストは介護事業の様に社会全体で育てても分担しようとするものだが
答 ファミリーサポート事業利用料の1/2助成、地域子育て支援拠点事業等、各種事業で支援充実に図っていく



菊池 忠二

問 働く環境と教育現場の両方を睨み、時代に合った弾力的な運営を迫られると思うが。
教育長 未就学児、就学児童を対象とした事業を展開し、子育て支援を充実させていく。



問 奥州一宮八槻歴史の駅整備事業は 答 観光地として整備し経済効果を生み出す

問 奥州一宮八槻歴史の駅整備事業の概要について。
町長 地方創生総合戦略に掲げる歴史文化資源を活用した交流人口の拡大に向けた情報発信機能や、町の農産物等の特産品を販売する機能を持った観光拠点施設を八槻都々古別神社の隣接地に整備する。

問 八槻家住宅(県指定重要文化財)改修整備事業の概要について。
町長 八槻家住宅の屋根の改修や既存増築部分の改修を行い、地域住民が主体となって開催するイベントや、文化財や芸術作品の展示ができる施設を整備することで、より高い集客力を持つ施設として改修をする。

問 奥州一宮八槻歴史の駅の整備事業並びに八槻家住宅改修整備事業の完成予定は。



隣接地に「奥州一宮八槻歴史の駅」が整備される「八槻都々古別神社」

地域創生課長 平成29年度事業完了。
問 八槻都々古別神社、如意輪寺、八槻家住宅を案内できるようにパンフレット等が必要と思うが。
地域創生課長 パンフレット等だけではなく、ふるさとガイドの活躍の場にもなればと考えている。

問 道路の日陰対策事業について
答 早期に解決できるような実施計画で今後検討する

問 日陰対策事業は各行政区の要望する箇所から実施しているのか。
町長 各行政区より要望のありました箇所及び町で把握している箇所から優先度の高い箇所より実施。

問 現在までに、日陰対策事業を実施した箇所は何箇所あるのか。
町長 3箇所実施した。

問 町では、日陰対策が必要と思われる箇所は把握しているのか。
町長 各行政区より要望のほか、道路パトロールにおいて町道の14箇所について把握している。

問 日陰対策事業は日陰対策が解消されるまで続けるのか。
町長 日陰対策として効果があると判断し所有者の協力が得られる箇所は実施する。

問 日陰対策の事業費は。整備課長 27年度28年度、今年度も100万円。



和知 裕喜

問 棚倉町健康づくり交流館整備事業について
答 健康産業の雇用が図れるような事業

問 棚倉町健康づくり交流館の改修の概要について。
町長 ルネサンス棚倉のテニスクラブハウスを改修し、ヘルスツーリズム事業や、インストラクターの養成事業を通して、利用者が交流したり、研究施設として活用できる交流館として整備する。

厚生文教常任委員会・建設経済常任委員会

行政調査報告

厚生文教常任委員会及び建設経済常任委員会について、※閉会中の所管事務調査を行い、3月3日に行われた議会全員協議会へ報告し、3月議会定例会にその結果を提出しました。

厚生文教常任委員会：子育て支援に伴う幼保教育の現状及び進捗状況について

棚倉幼稚園に訪問し、子ども教育課と棚倉幼稚園長から現在の状況や課題など説明を受け、3歳児保育を本格的に開始するための状況を確認しました。

また、棚倉保育園第1園舎へも訪問し、園長先生から現在の状況や課題などのほかに、新園舎建設についての説明を受けました。



幼稚園から説明を受ける様子



保育園から説明を受ける様子

建設経済常任委員会：棚倉町の企業誘致推進策について

前回の田村市への訪問に引き続き、今回は福島県商工労働部企業立地課へ訪問し、現在の福島県の方針や取組みなどの意見交換を行いました。



県担当者からの説明を聞いている様子

議会のへえ〜!

※閉会中の所管事務調査って何のこと

棚倉町議会には、総務・厚生文教・建設経済・広報編集の4つの常任委員会があり、この常任委員会が定例会期間以外に活動をするためには、議会の承認をもらわないとまらないんです。

定例会中に委員長が議長に申出(申請)をし、それを議会の議案として提出され、承認(決定)されてから、その事案をもって委員会が開催できるんです。



厚生文教常任委員会所管事務調査報告

調査内容 子育て支援に伴う幼保教育の現状及び進捗状況について

幼稚園視察

3歳児試行保育を中心に棚倉幼稚園を視察し、3歳児保育の導入は評価できる。しかし、幼稚園設備も十分であるように思われたが、30年度完全実施の実現に向けて、更なる施設整備をすることが望ましい。

また、園舎増築の中で、駐車場や園庭等の整備が必要でないかと多くの委員から声があった。待機児童を無くすため、保育園との連携を深め解消していただきたい。

今後の課題として、障害を抱えた子どもをはじめ、特別な支援を要する幼児が増える傾向にあり、インクルーシブ教育(障害の有無によらず、誰れもが学校で学べる教育)の観点からも支援員の配置が重要になり、また、施設の使い方に支障が生じることが心配される状況を踏まえ、計画的に優先事項を整理し予算を含め検討すべき

である。3歳児保育は、年齢差により生育の差があるため、指導方法の工夫が必要になってくる。

棚倉幼稚園以外でも平成30年度から完全実施となり、各園とも1クラス増える。それに向けて、職員配置も園児15名に対し1名を配置する予定となっている。

2年後の実施に向けて、再度、問題点や課題を洗い出し対応してもらいたい。

保育園視察

今回、第1保育園を視察し、老朽化した施設ではあるものの、園児のために工夫しながら運営されていたことが十分に感じることができた。

今後、整備予定の新園舎の進捗状況等の説明があり、この建築に伴い課題となっている待機児童の解消に取り組むとともに、保護者の

のニーズに合った保育施設として運営できるように期待したい。

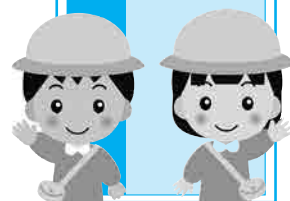
また、今後の保育内容を充実させるため、年齢ごとの保育計画を踏まえ、個々の発達の特性に合わせた支援を行うことや、平成30年4月より園舎が統合されることにより補助金等の減額、予算面においてデメリットが生じることがあるため、園としての経営努力が必要となってくる。引き続き、町の支援は必要と考える。

幼保教育全体について

幼保教育については、3歳児保育実施に伴い、町をあげて数々の取組みを実施しているが、今後の課題として、家庭、保育園、幼稚園での教育方針の違いもあり、幼保教育の観点から、保育園から幼稚園、幼稚園から小学校へ子どもたちがスムーズに移行できる体制づくりが共通認識である。

待機児童についての解消の工夫、預かり保育についての工夫など多方面においても母体を町立とすることで、行政のあり方を考える方がお互いの利点に多くなるのではないかと意見もある。今後も連携された活動体制を確立していくことが重要であると考え。

今後、予想される全国的な保育士不足などの教育環境等の動向を見ながら、共通した課題に積極的に取り組むことを期待し報告いたします。



- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 蛭田 卓雄 |
| 副委員長 | 藤田 智之 |
| 委員 | 松本 英一 |
| 委員 | 藤田 光子 |
| 委員 | 須藤 俊一 |
| 委員 | 和知 裕喜 |
| 委員 | 和知 良則 |

建設経済常任委員会所管事務調査報告

調査内容
棚倉町の企業誘致推進策について



京セラ棚倉工場移転についての
 事案を契機に、改めて企業誘致推
 進策について、他町村の誘致政策
 及び国、県の産業団地増設工事の
 基準、条件等について調査を行った。

- 一、議会も積極的に行動をとって
行くべきである。
- 二、改めて、全町民の総意と英知
を喚起すべきである。
- 三、近隣の町村も、産業団地増設
に対し消極的だが、雇用の確保、
人口増に向けて積極的な取り組
みが必要であり最重要政策のひ
つである。
- 四、30年までの復興補助金は、該
当する町内企業への案内に力を
注ぐべきである。
- 五、既存の産業団地（オーダーメー
ド方式）についての現状を再調
査し、企業立地にいたる経緯や
条件を示したパンフレットを作
成して誘致活動にあたるべきで
ある。

- 六、リアリティを重んじ、新しい
今の情報を共有すべきである。
- 七、白河市が設定した県営工業団
地は、レディーメード方式によ
る団地2ヶ所については企業立
地が済んでおり、オーダーメー
ド方式による団地は未処分と
なっている。従ってリスクが
伴っても、レディーメード方式
による産業団地造成が断然有利
であって方向転換も視野に入れ
るべきである。
- 八、町長のトップセールスは今や
当然であり、町当局、議会も真
摯な対応が求められる。



田村市訪問
 合併後の田村市は面積も観光資
 源も文字通り大きな市となった。
 魅力的な公共施設も整備し、各補
 助金を活用しながら企業誘致にも
 積極的に推進していた。

企業誘致に伴う田村市の予算は、
 3,169万円であり企業とも粘り
 強い交渉を行っている。現在も、
 旧セメント工場跡地に新たな産業
 団地を造成中であり、いくつかの
 問い合わせがあるとのことである。
 また、トップセールスも積極的
 に行っており、県の情報はもちろん、
 各イベントへの積極的な参加や人
 脈を駆使した外交も行っている。

**福島県商工労働部企業
立地課訪問**
 まずは、自治体の強い要望と熱
 意が必要であり、県の方針としては、
 概ね50haを設定しているが、20

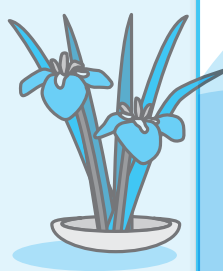
から30haでも造成は可能である。
 また、国や県の工業団地造成の
 支援制度は平成30年度を目安とし
 ているので早い時期での対応が必
 要である。近隣の例を挙げると、
 白河市の県営工業団地にオーダー
 メード方式で約10haがあるが未
 譲渡であり、団地指定は極めて困
 難な状況であるため、当町も参考
 にすべきであるだろう。



- | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|------|-----|
| 委員 | 委員 | 委員 | 委員 | 委員 | 副委員長 | 委員長 |
| 大相 | 鈴木 | 佐川 | 近藤 | 佐藤 | 古市 | 菊池 |
| 守 | 政夫 | 裕一 | 正光 | 喜一 | 泰久 | 忠二 |

議会の活動状況を報告します。

(平成28年1月1日～12月31日)



● 定例会・臨時会

会 議	開 会	閉 会	会 期	傍聴者数	一般質問	
					登壇人数	質問件数
第1回(定例会)	1月 4日	1月 4日	1	11	—	—
第2回(定例会)	3月 8日	3月18日	10	50	11	35
第3回(定例会)	6月14日	6月16日	3	45	9	31
第4回(定例会)	9月27日	9月30日	4	68	9	30
第5回(定例会)	12月14日	12月16日	3	26	11	37
合 計			21	200	40	133

● 提出議案数

種 類	件 数	
	町長提出	議員提出
条 例	36	—
予 算	35	—
決 算	9	—
専 決 処 分	10	—
そ の 他 事 件	17	—
合 計	107	—
条 例	—	—
意 見 書	—	1
決 議	—	—
規 則 / そ の 他	—	1
合 計	—	2



平成29年3月定例会議

● 委員会等開催状況

区 分	委 員 会	開催日数
常任委員会	総務常任委員会	1
	厚生文教常任委員会	2
	建設経済常任委員会	5
	広報編集常任委員会	13
	議会運営委員会	4
	特別委員会	3
	議会全員協議会	6

参加した主な研修会

2/4 新議員研修会(福島市)	8/24 東白川町村議会正副議長・事務局長会議(福島市)
2/23 東白川地方町村議会議員研修(埴町)	10/18～19 議会運営委員会行政視察研修(石川県内灘町他)
5/20 町村議会広報研修会(郡山市)	10/31 町村議会議員研修会(郡山市)
5/26～27 東白衛生組合議会議員視察研修(新潟市)	11/9～10 全国町村議会議長全国大会兼地域振興視察研修(東京都・北海道七尾町)
5/30～31 全国町村議会議長・副議長研修会(東京都内)	11/15 東白川地方町村議会議員研修会(鮫川村)
7/6～8 常任委員会合同行政視察研修(長野県上田市他)	11/29 東白川地方町村議会議員研修会(棚倉町)

言わせて一言

人を・心を・時をつなぐたなぐらまちに

住む皆様にご意見、ご感想を伺いました。

はじめまして。私は町内外で調理の仕事をして20年ほど経験し、今は駅前で飲食店を営んでいます。

議会だよりは、以前はほとんど目を通したことがありませんでしたが、ちよつとしたことがきっかけで興味が増えようになりました。それは、小学生の息子の通学路に危険な箇所があった議員に相談する機会があり、それが早急に改善されたことからでした。一般市民の願いであっても行動することによって、ちゃんと議会が機能してくれるのだなと実感できたからです。

一般市民でも、気軽に議会の傍聴が出来ることも最近知りました。町政の関わり方にも色々あるのだなと感じました。まだまだ細かな課題が山積みですが町民第一の活動に期待し、今後は議会だよりを通して町政に関わっていきたいと思います。

我が家は、三世代ソフトボールを通して地域交流をしています。今度はぜひ球場の整備もお願いしたいです。

新町にお住まいの
鈴木 英明さん



漆草にお住まいの
緑川 幸代さん



今回、このモニターのお話を頂き、初めて「議会だより」を隅々まで読ませて頂きました。

町のホームページで、過去の議会だよりや議会の議事録なども拝見し、議員の皆さんが活発に意見交換し、町民のことを想っていたに驚かされています。実感できました。そして、自分が住んでいる町のことに関心を持たなければならぬと考える直す良いきっかけになりました。

最近、この町に住んでいてスポーツ施設が不足していると感じます。以前廃止された町民プール、野球やソフトボールを楽しむ多目的運動広場の整備等、スポーツを通じて町民が集まる場所を、もっと提供して頂きたいと強く願っています。

小さな一町民の声を取り上げて頂き、「やっぱり棚倉に住んで良かった」と思える町になってほしいと思います。



あなたも議会を傍聴しませんか

傍聴の手続きは、役場庁舎3階の傍聴席入口で住所と名前を書くだけで、どなたでも傍聴できます。

6月定例議会日程のお知らせ (予定)

正式日程は、6月上旬開催予定の議会運営委員会で協議されます。

6月13日(火) 開会・本会議

6月14日(水) 一般質問

6月15日(木) 一般質問・閉会



編集後記

以前は、広報誌コンクールでの入賞を目指しておりましたが、現在は何よりも読んでもらえる広報誌を目指しています。情報が溢れる今日、興味を持って読んで頂ける内容とはどのようなものか、数字中心の報告書的な物から、もつと生のやり取りの伝わるような記事に変えることも、必要でしょうか…。これまで以上に工夫していきたいと思えます。

広報編集常任委員会

委員長 藤田 智之



広報編集常任委員会

- 委員長 藤田 智之
- 副委員長 鈴木 政夫
- 委員 藤田 光子
- 委員 菊池 忠二
- 委員 近藤 正光